

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！>

2025.5.21

JAL闘争を支える京都の会News No.116

京都市東山区今熊野南日吉町17 FAX: 075-531-3856 E-mail: komai123@kfa.biglobe.ne.jp

高年齢、過去の病歴を基準とした 解雇は世界の非常識！

2025年4月22日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「自立労連」、「合同織維労組」の皆さんなど、計10人にご参加いただきました。JAL客乗争議団から神瀬麻里子さんが参加されました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「2010年大晦日、JAL日本航空は165名の解雇を強行した。その内81名がパイロット、84名が客室乗務員であった。全員が20年、30年の経験を持つベテランの乗務員であった。各企業にとってベテランは宝物と同じである。客室乗務員もパイロットも一定の訓練期間を終えたら一人前の乗務員として仕事ができるかというとそうではない。先輩から経験談を聞き、何が安全で何が安全でないかを学んでいくことになる。飛行機はお客様を空港で一旦お乗せし離陸をすると、救急車も警察も消防車も呼べない。飛行機の中での緊急事態が発生したとき、乗務員が力を合わせ



てお客様を安全に目的地に運ぶ。それが私たち乗務員の責務である。そんな大事な役目を担っている客室乗務員とパイロット、合計165名をJAL日本航空はバッサリ首を切った。高年齢そして過去の病歴を理由にした解雇は、日本では常識かもしれないが、世界の非常識である。年齢や病歴によって差別をすることは許されないことだと思う。私たちは14年と4ヶ月、私たちを職場に戻せとがんばってきた。しかしJALは団体交渉を開いていない。交渉とよばれるものを開催はしているが責任者、社長、取締役は姿を現さない。去年の4月から女性が初めて社長職

についた。しかも客室乗務員出身の鳥取さんという方である。私たち争議団は少し期待をしたが、今までの社長と何ら変わりがない。去年の1月に羽田空港で海上保安庁の飛行機と降りてきたJALの飛行機が衝突し、尊い命が奪われた。そんな事件が起きててもJALの中は変わらない。そしてその事故の後、パイロットの飲酒問題が起きたが、その時に社長の鳥取



さんは国土交通省に呼ばれて深く深くお辞儀をして謝るばかりである。具体的な解決策は示さず、管理をきつくする、それしかJALはできないようである。なぜパイロットが規則を上回る飲酒をしてしまうのか、そして空港で間違いを起こしてしまうのか、それはパイロットがあまりにも仕事がきつくて飲酒せざるを得ないからである。しかしJALはそんなことはまったく考えない。私たちはJAL 165名が職場に戻れば良いと思っているわけではない。よ

り良い職場、安全な職場を目指している。客室乗務員は毎年500名以上が退職していく。それは仕事がきつい、賃金が低い、教えてくれる先輩がいないからである。今でも客室乗務員になりたいと言ってたくさんの若者が受験をして入社するが、希望を失って毎年500名以上が退職している。私たちが解雇された15年前から客室乗務員は7000名以上の新規採用をおこない、パイロットも700人もの採用をしているが、希望を持って仕事を続けるという状況ではないようである。ぜひ皆さんにはこの状況を知っていただきたく、今お配りしているカラーチラシをぜひお読みいただきたい。」と訴えました。会員のIさん、「きょうとユニオン」のOさんもJAL不当解雇撤回を訴えました。



神瀬さん（JHU）の参加報告（JAL不当解雇撤回争議団のfacebookから）

2025年4月22日

大手筋商店街宣伝。

気候も良くなりビラを受け取ってくださる方、多数。

「世の中全体がおかしくなっている。危険。自分もいろいろ調べて頑張っている」「水戸駅での宣伝も見たよ」とエールをくださる方もおられ、励まされました。解雇や不当労働行為をなくしたい！

次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)
5月27日（火） 午後2時～3時 伏見・大手筋商店街